



第15図 二次元ならいびぎ形立フライス盤

テーブルの左右最大移動距離.....	400 mm
サドルの前後最大移動距離.....	250 mm
ニールの上下最大移動距離.....	300 mm
ならい速度 (12段).....	25~315 m/min
主軸回転速度.....	400~4,500 rpm
主軸用電動機.....	1.5/0.75 kW (2/4 P)
油圧ポンプ用電動機.....	1.5 kW (4 P)
製品重量.....	約 2,000 kg

10 kVA 日立鋼板用点熔接機販売開始

日立製作所では、今まで小容量の鋼板用点熔接機として SR-F 形 (足踏式ロッカアームタイプ) 5 kVA を製作販売し非常に好評を得ているが、最近の需要増加の傾向にかんがみ、今回さらに 10 kVA (足踏式) 点熔接機を新機種として発表、正式に販売を開始した。

本機は従来機種にさらに改良を加え特殊形状の熔接でも容易にできるよう電極の位置が変えられる構造になっている。なお、部品の配置も保守点検が容易であるよう工夫が施されており、大きな特長としている。

特 長

- (1) 二段式リンク機構を採用しているため、小さな足踏力で大きな電極圧力が得られたため、作業性が高い。
- (2) 正確なタイマーにより均一な熔接ができる。
- (3) 電極が傾斜して取り付けできるため、特殊形状物も容易に



第16図 SR-FII形 10kVA 日立鋼板用点熔接機

熔接が行なえる。

- (4) 電極ストロークが 25~50 mm 連続的に調整できるので常に最適なストロークが選べる。
- (5) 操作が簡単で、合理的な部品配置により保守、点検が容易である。
- (6) 特別な冷却水確認装置が設けてあるため、絶えず冷却水の流量状態がわかる。

仕 様

形 式.....	SR-FII 形
定格容量.....	10 kVA
定格一次電圧.....	200 V
周 波 数.....	50~または60~(サイクル別専用)
最大短絡電流.....	9,000 A
最大入力.....	50~品 29.5 kVA
	60~品 32.5 kVA
最大入力に対する許容使用率.....	50~品 5.7%
	60~品 4.7%
フトコロ寸法.....	深さ 380 mm 間隔 200 mm
電流調整範囲.....	5 段切替 100~50%
最大加圧力.....	200 kg
電極ストローク.....	25~50 mm
能力(最大板厚).....	2.4 mm×2
重 量.....	約 220 kg

単相防止装置付開閉器箱発売

三相モータルの焼損事故の大半は単相運転によるものであるが、今回日立製作所では単相運転防止装置付開閉器箱を発売した。

この開閉器箱は 1.5~3.7 kW 三相モータルの手元開閉器および分岐開閉器として使用される目的で製作されたものである。操作は押ボタン方式で鋼板製ケースの中に形開閉器部、電流計、ヒューズ台、単相防止装置などを備えており、三相中一相でもヒューズが溶断すれば防止装置により自動的に三相電源を遮断し、モータルの単相運転を防ぎ焼損より守るもので、一般工場、作業場をはじめ各方面に広く用いられるものと思われる。



第17図 単相防止装置付開閉器箱

仕 様

形 式.....	SKB _{3P} -WMS
定格電圧.....	250 V
定格電流.....	30 A
短絡遮断電流容量.....	1,500 A
電動機容量.....	1.5~2.2 kW
	3.7 kW
形式承認番号.....	▽5-3071

家庭用に好適な新形日立ステレオ

「DPS-851」 発 売

このたび豪華な高級木製キャビネットに、ラウドネスコントロール付きの2チャンネルラジオを組み込んだ日立ステレオ「DPS-851」を発売した。

このセットは現在発売している「DPS-640」をよりコンパクトにまとめたもので、豪華なデザインに音の向上をはかり、さらに家庭用として手軽に求められるように、3万円台を割った低価格をうら出した高級ステレオである。

おもな特長

- (1) 音量の大小にかかわらず、最低音から最高音部までを完全に再生する「ラウドネス・コントロール (聴覚補正)」のはたらかせ、音をぐっと小さくしぼっても、コンサートホールと同じ迫力



第18図 日立ステレオ「DPS-851」

- にみちたステレオ演奏が楽しめる。
- (2) 前面左右に16cmのハイファイスピーカがついており、音をいちだんと良くするための新しいコーン紙と、強力マグネットの採用で、音量をあげても無理のない自然そのままのハイファイトーンを聞くことができる。
 - (3) 回路構成は8球セミトランス・レス回路による経済設計で消費電力がはるかに少なく(30W)、そのうえ大形なみの豊かな出力(最大2.1W)をもった理想的な設計になっている。
 - (4) 音質調節は、「ソフト」「ナチュラル」「クリヤー」の3段に切替えができ、かんたんに好みの音質に調節できる。
 - (5) レコードの音量調節は、セットの前面についているラジオの音量調節つまみと兼用になっているので、演奏中にいちいち上ぶたを開ける必要がなく、しかもレコードに全くショックをあたえることなく音量の加減ができ、針とびの心配もない。
 - (6) 2台のラジオを組み込んだ完全2チャンネルになっている。

ので、ラジオのステレオ放送もこのままで楽しむことができる。

(7) キャビネットはアンチーク仕上げの高級木製で、音響効果の良いサランネット張りの豪華なデザインになっており、性能だけでなく、デザインの面でも今までの2万円台のステレオにみられない豪華なものになっている。

価格： ラジオ・プレーヤー2点組み合わせ、現金正価 29,900円
月賦正価 31,800円(12か月月賦)

おもな規格

- SG-851
 - 回路方式.....8球2チャンネル2バンドスーパーヘテロダイソ
 - 受信周波数帯.....短波放送(SW)3.8~12 Mc
 - 標準放送(SW) 535~1,605 kc
 - 中間周波数.....右チャンネル 455 kc
 - 左チャンネル 440 kc
 - 使用真空管(日立).....12BE6×2, 12BA6×2, 6AV6×2,
 - 30A5×2, HR25(シリコン整流器)
 - 出力.....右チャンネル, 左チャンネルとも
 - 1.3W(無ひずみ), 2.1W(最大)
 - パイロットランプ.....6.3V 0.15A 4個
 - 消費電力.....30VA
 - スピーカ.....日立16センチ P.Mスピーカ2個
 - 寸法.....幅960mm×高さ710mm×奥行310mm
 - 重量.....約13.7kg
- DPU-851
 - 使用電源.....交流100V 50/60~
 - 消費電力.....9.5W
 - ビッタアップ.....ターンオーバー式 ステレオクリスタルビッタ
 - アップ(ロケット形 サファイヤ針つき)
 - 使用針.....ST・LP用 NH-ST₂
 - SP用 HN-SP₁
 - 針圧.....LP・EP・ST・SPとも 7g
 - モートル.....4スピードインダクションモートル
 - (マグネチックレギュレータつき)
 - ターンテーブル.....17センチゴムカバリングつき
 - 寸法.....幅320×高さ110×奥行220mm
 - 重量.....約1.9kg

..... 編集後記

産業界の発展と設備の近代化に伴い、効率の良い信頼性のあるタービンの需要が急増している。「中容量シングルフロー蒸気タービン」は、この要望にこたえて開発された長大な最終段階を使用した新形式のタービンの性能ならびに具体的な適用例の詳細を報告したものである。産業用タービンの発展が大きく期待されているおから注目すべきであろう。

◎

各種工業プラントのオートメーション化は、ますます高度化し、グラフィックパネルによる中央集管理方式からさらに進んで、データ処理装置方式が採用される段階にはいった。データ処理装置は複雑な計算を含むものは電子計算機を中心としたものが、また比較的計算の簡単なものは継電器またはトランジスタを主体としたものが使用される。本号で紹介した「データ処理装置」は、製鉄工業において実用された継電器を主体としたものの具体例と、その機構について述べたものであり、データ処理装置設置計画にあたっての好資料となるものである。

◎

ウランを原子燃料として使用する場合には、方向性があると寸法に変化が生じ使用にたえなくなる。したがって燃料製造のためには方

向性をなくすることが絶対に必要であり、このためβ-処理という熱処理が行なわれる。「ウランのβ-処理」は、熱処理において方向性の消失する過程と、その実験結果の報告で、原子力平和利用の発達に貢献するところ多い文献である。

◎

ジルコニウムは中性子の吸収率が少なくかつすぐれた耐食性と高温強度をもつため、原子力材料として多量に使用されるが、中性子の吸収率の非常に大きいハフニウムが混りやすいという欠点がある。ジルコニウムとハフニウムは化学的な性質が極端に類似しているためハフニウムの定量は化学分析では不可能に近く、物理的な方法によらなければならない。「ジルコニウム中のハフニウムの定量分光分析」は、回折格子分光写真機を使用して、ハフニウムの含有量を迅速かつ正確に定量する分析方法と検討結果の貴重なデータの提供である。

◎

一家一言欄には明治大学工学部長石田博士より「工学と理学」と題し、わが国の工業水準向上のため、教育の重点は工学に偏することなく理学部門も併せて充実することが必要であると説かれた玉稿をいただくことができた。ご多用中特に本誌のために筆を執られた筆者のご好意に深く感謝する次第である。

<p>日立評論 第44巻第3号</p> <p>昭和37年3月20日印刷 昭和37年3月25日発行</p> <p>(毎月1回25日発行)</p> <p><禁無断転載></p> <p>定価1部100円(送料24円)</p> <p>© 1962 by Hitachi Hyoronsha Printed in Japan</p> <p>乱丁落丁本は発行所においてお取りかえいたします。</p>	<p>編集兼発行人 伊 藤 廉</p> <p>印 刷 人 浅 野 浩</p> <p>印 刷 所 株式会社日立印刷所</p> <p>発 行 所 日立評論社</p> <p> 東京都千代田区丸の内1丁目4番地</p> <p> 電話東京(211)1411(大代表)</p> <p> 振替口座東京71824番</p> <p>取 次 店 株式会社オーム社書店</p> <p> 東京都千代田区神田錦町3丁目1番地</p> <p> 振替口座東京20018番 電話東京(291)0912</p>
--	--

広告取扱店 広 和 堂 東京都中央区銀座西8丁目9番地 一越ビル5階 電話東京(571)6836, 8763 (572)0606